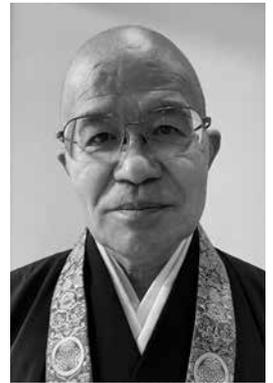


百味講たより



西城 宗隆
大本山 増上寺 内侍長

百味で満たす慶讃法会と御忌大会

百味講の皆さまには、大本山増上寺の浄土宗開宗八百五十年慶讃法会・御忌大会をはじめ諸行事にご奉仕たまわり、無事円満成就することが出来ました。誠に有難うございます。

私は昭和四十八年に増上寺雅楽会に入会し、翌年開宗八百年の年に加行を受けました。五十年に大学を卒業し、御忌大会は雅楽会員として勤めました。その時に原口徳正教務部長から明日から増上寺に来なさいと言われ、内侍に勤めることになりました。大野法道台下と藤井實應台下の二代にわたってお仕えしました。

今回、不思議なご縁で内侍長になりました。台下のお部屋に入ると、ここで四十年前に藤井台下の警咳に接することが出来たことを昨日のように思い出しました。先代西城正倫は内侍長を勤めていましたので、二代目の内侍長となります。

また、この度は講の方々とも親しく接する機会が出来ました。新卒の時にお会いした時より、現役でかくしゃくたる方から「あなたも年を取りましたね」とも言われてしまいました。なかには、先代・先代さまからのお付き合いですという方もいらっしゃいます。これからその御縁を続けたいと思います。

さて私の寺は、市村羽左衛門と中村勘三郎はじめ歌舞伎役者の墓所があるので、役者寺と称されています。そこで歌舞伎といえば「浜松屋」の弁

天小僧の一節に百味講が出てきます。

知らざあ言つて聞かせやしょう♪ 百味講
(ひやくみ)でちらす蒔銭(まきせん)を

当てに小皿の一文字(いちもんご)♪ 弁天
小僧菊之助たあ おれがことだ♪

川柳には、講中は長生きするという「江の島の百味寿命よき補菓」、街道筋でも目立ったのでしよう「上がり下がり立場も派手な百味講」、様々な年代の人がいる「胡麻塩も芥子も交った百味講」などがあり、江戸期より存在感のある講です。

將軍家の法事は、必ず四智讃・伽陀中に献供してから始まります。百味講の方が裏方として活躍されていたかと思えます。百味講さんと言えば、御忌大会の献供姿です。講元さまを先頭に御餅・生菓子などが続きます。その供物の中央には菊の造花が挿されています。お練りをして捧げる供物のみが造花を挿しています。知恩院では三上人遠忌と八百年遠忌に伝供が行われました。同じように有平糖・ねりきりなどの和菓子の中央に松・桜などの造花を挿していました。菓子職人さんに造花のことを尋ねてもわからないとのことでした。施餓鬼の梵天のように、何か象徴的な意味があるかもしれません。結びに、講員の皆さまのご健康とますますのご隆昌を念じ、今後とも御助力の程をお願い申し上げます。

合掌



「街の和菓子屋として」

芝神明榮太樓 内田 吉彦

令和五年春より入講させて頂きました芝神明榮太樓の内田吉彦と申します。

増上寺様には、御紋菓をはじめ和菓子全般、お供え餅を納めさせて頂いております。

「百味講だより」には初めての寄稿です。で、弊社に関してお伝えさせて頂きたく存じます。

初代内田長吉が、日本橋榮太樓總本舗で修行の後、暖簾分けを許され、明治十八年、芝の地に創業致しました。

先に暖簾分けで開業していた先輩方は、蛸殻町等の日本橋界限に出店したようですが、初代はお世話になった總本舗のお客様を取り合うようなことがあってはならない、と離れた土地を選んだと聞いております。

明治三十五年、初代は現在でも主力商品であります文豪尾崎紅葉命名の「江の嶋最中」を考案、創作します。焦がし皮にそれぞれ異なった餡(こし餡、粒あん、胡麻餡、白あん、柚子餡)を詰めた一口サイズの貝殻型の最中です。当初、親戚であった日本画家の武内桂舟にこ



のお菓子の菓名を求めたところ、当時、挿し絵を描いていた縁から紅葉さんをお願いする流れになったようです。

弊社の店舗は、関東大震災、第二次世界大戦と二度、完全消失しております。

戦後、闇市からの砂糖やサツカリン等の甘味料で商売をする人の多い中、二代目は安全

で安心な原材料が入ってくるまで店を再開することはありませんでした。そして、昭和三十年に戦争から戻ってきた三代目(父)以志夫と店を動かし始めました。

四代目となる私が店に入

るのは、昭和も終わる頃のこととなりました。

我々の変わらぬ示針に

「ひとりひとりのお客様に

ひとつひとつのお菓子に

まごころをこめて」

というものがございます。

例えば一日に同じお菓子を千個作るとして、目の前のお菓子が我々には千分の一個であつてもお客様にとっては一分の一個である、ということをお心掛けております。

今後は、微力ではありますが、百味講のお手伝いをさせて頂き、いろいろと学ばせて頂きたいと存じます。





「増上寺様と牧野総本店」

(株)牧野総本店 豊島 洋子

百味講だよりをご覧の皆さま、初めまして。

(株)牧野総本店の豊島洋子と申します。

当社は港区高輪にあります創業150年余の葬儀社です。永年増上寺様にお檀家様のお葬儀を始めとし、御忌、節分、盆踊り、薪能、浄梵会など季節の行事にお手伝いに伺っております。

私ども牧野総本店は先代会長であります

父、豊島泰三の時代に
お付き合いが深まったように
思います。「時間ですよ」という
ドラマを覚えて
いらっしやいますか。
麻雀仲間だった
演出家の



久世光彦プロデューサーが父の無精ひげ姿が

時の総理、田中角栄さんに似ていると面白がり「町の総理」役で起用。舞台は銭湯、衣装はふんどし。小学校にあがったばかりの私は恥ずかしくて、人にあれはお父さん?と聞かれても人違いですと答えていました。

昔から芸達者であった父は喜々として出演していた反面、今ほど葬儀屋が普通の職業でなかった時代にその地位向上や会社の宣伝も考えていたと後から聞きました。そのおかげか地元高輪では「そっくりさんの葬儀屋さん」として長く親しまれています。

平成三年に父は亡くなり、葬儀は増上寺様にて旧会館をお借りしました。増上寺様が大好きだった父を偲び、三回忌にあたっては追善供養の江戸彼岸桜を鐘楼堂前にご奉納いた

しました。江戸彼岸桜はその名の通り春のお彼岸に花を咲かせ、御忌の頃には葉桜となります。この桜は植えた頃ですでに樹齢80年、今ではすっかり老木の域ですが変わらず鐘の前立っていられます。

増上寺様あつての百味講、増上寺様あつての牧野総本店。これからお山のために微力ながらお支えし、桜のようにそこに居るのが当たり前存在となれるよう励んで参ります。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



百味講アルバム2024

新年会



執事長ご挨拶



聞き入る講員



渡邊部長ご挨拶

納涼会



笠原課長ご挨拶



小林副講元手締め

百味講アルバム2024

開宗850年慶讃法要・御忌



講員集合



家康公像



ニコニコ古島顧問



江口さん初行列

研修旅行(母畑温泉)



母畑温泉でスッキリサッパリ



ミス奥久慈と



赤羽部長、笠原課長と新三役

令和5年度百味講事業報告

自 令和 5 年 3 月 1 日
至 令和 6 年 2 月 29 日

| | | |
|--------|------------|----------------------|
| 令和 5 年 | 3月 1日 | 御法主晋山式 供物準備会「天陽院」 |
| | 2日 | 御法主晋山式 お練り行列出仕 |
| | 29日 | 定期総会 「椿の間」 |
| | 4月 4日 | 定例会、御忌供物準備会「天陽院」 |
| | 5日～7日 | 御忌大会（お練り行列 3 座出仕） |
| | 4月 16日 | 地藏尊慶讃大法要、お練り行列出仕 |
| | 5月 15日 | 正五九祈願会「安国殿」 |
| | 6月 29日 | 納涼会・課長懇親会「銀座らん月」 |
| | 30日 | 講中護持会役員会 |
| | 7月 16日～17日 | 地藏尊盆踊り |
| | 8月 31日 | 暑気払い「新橋亭」 |
| | 9月 15日 | 正五九祈願会「安国殿」 |
| | 10月 4日～5日 | 開宗850年慶讃お待ち受け法要知恩院団参 |
| | 11月 19日 | 定例会「文化室」 |
| | 12月 1日 | 講中護持会役員会 |
| | 1日 | 縁山流聲明と雅楽の夕べ 参観 |
| | 7日 | 百味講忘年会「銀座らん月」 |
| | 31日 | 年越し・三門警備出仕 |
| 令和 6 年 | 1月 15日 | 正五九祈願会「大殿」互礼会「講堂」 |
| | 1月 19日 | 節分追儺式事務所開き |
| | 23日 | 新年会・部長懇親会「銀座治作」 |
| | 2月 3日 | 節分追儺式・行列整備・当り券引換 |
| | 24日 | 円山隨身稻荷慶讃法要（二の午） |

ご報告

2024年3月の百味講総会で、日本香堂小林日出男さん、石森表具店石森一さんの副講元就任が決まりました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

日本香堂小林副講元



百味講副講元 小林 日出男
去る十月十四日、知恩院での御神輿奉納に参列させて頂きました。法然上人様が祝福されているが如く、絶好の秋晴れの中、勇ましい掛け声によって担がれた神輿が、知恩院通りから三門をくぐり、男坂を登って行く様は迫力満点。多くの参拝客の目が釘付けとなりお手伝い頂いていた知恩院内局の方々も「ここは本当に京都なの？」と口から出るほど江戸風情を漂わせておりました。そして事故や怪我もなく無事に御影堂で全員が法要に参加出来たことは何よりも素晴らしく、みこし講の方々をはじめ、この日に向けてご尽力を注いで来られて方々に感謝申し上げます。

「圧巻！」
神輿奉納



大本山 増上寺 御用 達百味 講

浄土宗
袈裟・法衣専門

(有) 吉野法衣店

吉野 輝雄

〒160-0012 新宿区南元町17
TEL 03-3355-2168 FAX 03-3355-2204

御袈裟・法衣専門

太田法衣店

太田 祥二

〒121-0076 足立区平野2-15-16
TEL 03-3883-3225 FAX 03-3883-1634

伝統の技
三代にわたる信頼

(有) 古島法衣店

古島 浩

〒111-0041 台東区元浅草4-2-1
TEL 03-3842-1289

総合印刷

(株) エスプリ

阪本 順一

〒135-0033 江東区深川1-6-7
TEL 03-3641-1891 FAX 03-3641-1923

仏壇・仏具

(株) 瑞祥浜田

浜田 明男

〒111-0042 台東区寿2-9-13
TEL 03-3844-9473 FAX 03-3844-5017

表装・額装・襖一式

石森表具店

石森 一

〒108-0073 港区三田1-7-2-102
TEL 03-3451-3138

佛像彫刻・文化財保存修復

佛師 山本 築老和

山本 築老和

〒145-0063 大田区南千束3-28-5
TEL 03-3727-1122 FAX 03-3727-1122

仏壇・仏具

(株) 安田松慶堂

星野 家康

〒104-0063 中央区銀座7-14-3
TEL 03-3542-5771 FAX 03-3546-2140

増上寺謹製・三縁クッキー

(有) ポエム洋菓子店

安部 嘉祐

〒174-0046 板橋区蓮根1-18-11
TEL 03-3966-2324 FAX 03-3966-2398

音響・映像・NET配信

(有) ボブス

豊田 浩人

〒145-0067 大田区雪谷大塚町7-10-703
TEL 03-3729-5148 FAX 03-3729-5149

創業寛政二年(1790年)八代目

(有)石政石材店

眞田 貴志

〒108-0071 港区白金台4-5-7

TEL 03-3441-1483 FAX 03-3441-3156



大本山

増上寺御用達百味講

葬儀・式典企画運営

富士典礼

山本 雅嗣

〒142-0042 品川区豊町4-3-17

TEL 03-5434-2210 FAX 03-5434-0860

思いとどける ころろ伝える。

(株)日本香堂

小林 日出男

〒171-0014 豊島区池袋3-18-12

TEL 03-3973-7111(代) FAX 03-3530-1238

葬儀のご用命は
古い信用・新しいサービス

(株)牧野総本店

豊島 洋子

〒108-0074 港区高輪1-21-1

TEL 03-3445-0506 FAX 03-3445-0508

お花で思い出を永遠に

(株)花 幹

三須 健

〒143-0024 大田区中央8-31-11

TEL 03-3755-2120 FAX 03-3754-4687

懐石料理

(株)味ごよみ一心

廣中 久見

〒105-0011 港区芝公園2-6-8

日本女子会館1F

TEL 03-3438-1041 FAX 03-3438-1044

旅のことならすべておまかせください

東武トップツアーズ 東京法人
東事業部

茂呂 政明

〒103-0025 中央区日本橋茅場町2-10-5

住友生命茅場町ビル2F

TEL050-9000-4246 FAX03-6667-0565

和菓子全般

芝神明榮太樓

内田 吉彦

〒105-0012 港区芝大門1-4-14

TEL03-3431-2211 FAX03-3431-2212